

弥生文化博物館平成6年冬季企画展

2月26日(土)

3月27日(日)

■開館時間/午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで) ■休館日/毎週水曜日

入 館 料	個人	一般400円	高・大生300円	小・中生100円
	団体	一般320円	高・大生240円	小・中生 80円

(団体は20名以上)

埋れた和泉の歴史

— 信太山から榎尾山へ —



主催 大阪府立弥生文化博物館 和泉市教育委員会


考古学講座

3月6日(日)

午後2時～4時(受付は1時から)

灰掛 薫 (和泉市教育委員会社会教育課主幹)
「和泉市の文化財」



 大阪府立弥生文化博物館

〒594 和泉市池上町443 TEL(0725)46-2162
JR南海和線天王寺駅から25分 信太山駅下車徒歩7分
南海本線松ノ浜駅から徒歩20分

■主な展示品リスト

縄紋時代—土面—(仏並遺跡)

弥生時代—弥生土器(壺)—(万町北遺跡)

古墳時代—船形埴輪 菩提池西遺跡

—須恵器(器台つき装飾壺)—(姫塚古墳)

平安時代—蝶鳥草花文水滴—(榎尾山経塚)

—木簡—(万町北遺跡)

ごあいさつ

大阪府の南部に位置する和泉市は、南北18.8km東西6.9kmの南北に細長い短冊形の市域から成っています。南端には和歌山県との境をなす標高800mを越える和泉山脈が連なり、この山並みを源として榎尾川と松尾川が市内を縦断し、大阪湾へと注いでいます。

なかでも、榎尾川沿いの谷筋は池田谷と呼ばれ、河内、紀伊へ通じる街道として古くから栄えてきましたが、近年の考古学調査などによって、2~3万年前の旧石器時代から近世に至る人々の生活の跡が明らかにされつつあります。

この谷筋には、仏並遺跡、万町北遺跡、池田下遺跡、府中遺跡などの集落跡が並び、両側の信太山丘陵と和泉中央丘陵の一带には、須恵器発祥の地として知られる「陶邑古窯址群」が広がっています。

また、和泉黄金塚古墳をはじめ数多くの古墳が築かれ、榎尾寺(施福寺)、和泉国分寺、池田寺、和泉寺、信太寺など、白鳳時代の寺院も少なくありません。

今回は、旧和泉国の国府所在地としても栄えた和泉市域の歴史と文化をご紹介しますため、企画展「埋れた和泉の歴史—信太山から榎尾山へ—」を開催することにいたしました。

開催にあたり、貴重な資料の出品にご協力いただきました関係各位に、厚くお礼申し上げます。

大阪府立弥生文化博物館
和泉市教育委員会